

令和 2 年度文化芸術による子供の育成事業(巡回公演事業)

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 東京演劇集団 風
公演団体名	東京演劇集団 風

内容

【事前打合せの実施】

ワークショップ実施前に各開催校を訪れ、先生方との事前打合せを行います。上演作品のあらすじ・参加共演の内容などをお話ししながら、先生方の要望・期待を伺い、学校ごとのプログラムやスケジュールを提案・相談します。



【ワークショップの内容】

子供たちと俳優が共に『星の王子さま』の一場面を創り上げる
演出家の指導のもと、子供たちが参加共演する場面の実演練習を行います。
場面は王子さまが自分の星へと旅立つクライマックスシーンです。
学校や子供たちひとりひとりにとって、思い出深い公演が行えるよう、全校の児童・生徒が参加し、演劇を実体験できるワークショップです。



〈ワークショップ実施内容〉

【① 作品解説】

『星の王子さま』のあらすじや参加場面の内容を説明します

【② 俳優との実演練習】

- (1) 俳優の実演とともに〈立つ・星を見上げる・座る〉動きを練習
- (2) 王子とかけあいで歌うソング「ぼくは行く」に取り組む
- (3) 旅立つ王子に呼びかけるセリフを、俳優と練習

【③ 通し稽古】

本番通りに俳優たちが共演場면을演技し、練習した〈動き・歌・セリフ〉を組み合わせ、クライマックスを実際につくってみます



【体験と交流】

実施前後の時間や休憩時間には、俳優・スタッフとの交流や、道具・機材の体験を行う機会をなるべく設けています

タイムスケジュール(標準)

ワークショップ準備 30 分程	ワークショップ 1 時間半 (授業 2 時限分／休憩 10 分)	* 作品解説 * 実演練習 * 俳優スタッフとのふれあい	本番に向けた 先生方との打合せ 30 分～1 時間
--------------------	--	------------------------------------	---------------------------------

派遣者数

演出(浅野佳成)、俳優(王子さま役:白根有子／花役:渋谷愛／星の住人役:栗山友彦)、
舞台手話通訳、スタッフ
— 計6名

学校における事前指導

事前指導は必要ありません。まずは共演する俳優と「やってみること」から始めていきます。

- ・ワークショップから本番の期間中に必要な資料(台本・楽譜・音楽 CD)を事前打合せの際にお渡しします。
- ・ワークショップ終了後、担当の先生方と打合せを行い、本番までの取り組みや、本番当日のスケジュールなどを提案します。

※ワークショップに参加できない合同開催校や本公演当日にワークショップを実施する場合は、共演のために必要な資料(児童生徒配布用上演台本／楽譜・音楽 CD)を事前にお渡しします。本公演当日までに、音楽 CD の放送、上演台本の児童生徒への配布などの取り組みをお願いしています。

令和 2 年度文化芸術による子供の育成事業(巡回公演事業)

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 東京演劇集団 風
公演団体名	東京演劇集団 風

演目

演目 星の王子さま (一幕:55 分・二幕:50 分・途中休憩:10 分)

原作:サン＝テグジュペリ

訳:内藤濯

構成・演出:浅野佳成

音楽:八幡茂

演出助手:江原早哉香／西垣耕造

舞台美術:松井るみ

照明:坂野貢也

音響:酒見篤

※バリアフリー部分監修:

大河内直之・廣川麻子

〈キャスト〉

王子:白根有子

飛行士:緒方一則

キツネ:工藤順子

花:渋谷愛

へび:栗山友彦

星の住人:酒井宗親

蒲原智城

※舞台手話通訳:小島祐美

※音声ガイドナレーター:辻由美子

※バリアフリー公演希望校の場合のみ

ほか



派遣者数

キャスト:11 名 スタッフ:14 名 合計:25 名(内、バリアフリーバージョン必要人数 4 名)

※通常公演は合計 21 名

タイムスケジュール(標準)

これは基本的なタイムスケジュールです。打合せのなかで 1 校ごとにスケジュールを決めていきます。

時刻	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
前日											舞台設営 (道具搬入)			
当日		舞台設営	リハーサル バックステージ ツアー	本番 (2 時間)	舞台撤去 (2 時間)									

※舞台設営にかかる時間は、体育館条件によって異なります。

実施校への協力依頼人員

公演前日に体育館への荷物の搬入・舞台設営を行います。

搬出入、舞台設営・撤去の際に、お手伝いをお願いすることは基本的にありません。

演目解説

『星の王子さま』は第二次世界大戦中に執筆され、現在も年齢を問わず世界中の人たちに愛され続けている、フランスの作家サン＝テグジュペリの名作です。

劇団は作家の遺族協力のもと、1988年に初演。以来、代表作として上演を続けています。

遠い小さな星でひとつの花と暮らす王子さま。しかしふとしたケンカをきっかけに、王子さまは、様々な星を巡る旅に出かけます。最後にたどり着いた地球で、〈友だち〉や〈かけがえのないもの〉が何かを学び成長する王子さま。そして一年が経ち、星に残してきた花のために自分の星に帰っていくのです。

『星の王子さま』は地球の美しさ、そしてそこに生きる人間が、なくてはならないものを私たちに訴えています。「肝心なものは目には見えない、心で見なくては—」。

2019年、本編に舞台手話通訳・音声ガイド・字幕、事前の舞台説明を付したバリアフリー上演・参加型公演を開始。障害の有無や年齢の違いを超えて、あらゆる人が共に楽しめる作品づくりを行っています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

[参加共演場面]

*『星の王子さま』のクライマックス:全校児童・生徒の参加

王子さまが自分の星へ帰る物語のクライマックスを、児童・生徒のみなさんと俳優が、〈動き・歌・セリフ〉で一緒に場面をつくります(ワークショップで練習します)。

*最上級生による旅立ちの歌「ぼくの旅はつづく」

王子さまが地球へと旅立つ場面では、卒業を控えた最上級生全員が俳優と一緒に舞台上に立ち、旅立ちの場面をつくります(公演当日、俳優とスタッフとともにリハーサルを行います:45分間程度)。

*「呑み助」「地理学者」役での先生の参加

王子さまが星をめぐるシーンで、星の住人「呑み助」「地理学者」を先生に演技いただきます(公演当日30分間程度のリハーサルを行います。事前の練習は必要ありません)。

学校の希望により吹奏楽部などの「演奏」による参加・共演も可能です。

王子さまが歌う劇中のソングを吹奏楽部・プラスバンドが生演奏します

(打合せのなかで、先生方と参加方法を話し合います)。



児童生徒とのふれあい

子どもたちの〈驚き・興味〉が生まれ、公演が大切な〈思い出〉となるよう、先生方との打合せを行いながら、子どもたちが演劇づくりの裏側に触れ、働く人と交流する機会をつくっています。以下はその一例です。

《公演当日のバックステージツアー(舞台裏体験)》

体育館に設置された舞台の仕組みをスタッフや出演者が説明します。子供たちがさまざまな角度から舞台に触れ、より〈演劇〉を身近に感じてほしいと考えています。

《オペレート体験》

実際に舞台上で使う照明や音響の操作を体験

《授業への参加》

キャリア教育の一環として授業に俳優が参加する など

学校の要望を伺いながら、本事業が子供たちにとって、有意義な経験・取り組みとなるよう、本公演当日のプログラムを作成していきます。

